

## 2016年度事業計画

学校法人 東洋英和女学院

当学院は、キリスト教（プロテスタント）の信仰と聖書の教えに基づいて、建学の精神である「敬神奉仕」に沿った人間形成を重んじる学校教育を行っています。

カナダ・メソジスト教会から派遣された婦人宣教師マーサ・J・カートメルにより当学院が創設されて132年目を迎える今年も、信仰、希望、愛をもって女性教育という使命に自らを捧げた諸先達に倣って、幼稚園から大学に至る総合学園としての一貫教育という特色を更に活かしながら教育指導面の一段の充実を図り、私どもへのご期待に応え得るよう努力を続けてまいります。

各部ごとの2016年度事業計画は以下のとおりです。

### 1. 各部の教学計画

#### (大学・大学院)

##### 《大学》

「英和スピリッツ」と呼称される英和式リベラルアーツ教育のカリキュラム設計を推進し、2017年度入学生からの運用を目指す。このため、現行の「英和スピリッツ運用センター検討会」を「英和スピリッツ運用センター」へと改組し、現在試行中のPBL（Project Based Learning）その他のAL（Active Learning）教育と新カリキュラムとの架橋と有機的連携をはかる。同時に、かねて研究・検討を重ねてきた「村岡花子記念講座」を女性学・英和学（自校史）相当の半期科目として2017年度より開講し、一部を公開するための準備を進め、2016年度後期を目途として対外発信を兼ねたその公開プレ講座を実施する。また、この記念講座と連動した形で「村岡花子記念給費奨学生（仮称）」制度の導入に向けた調整・準備を進める。これらのカリキュラム改編をハード面から支え、学生の主体的な学びや自己啓発力の涵養に資するため、「ラーニング・コモンズ」の設置に向けて調査と検討を加速させる。具体的には、図書館を大幅に改修して学習サポートセンターその他の情報資源を一元的に集約する「場」の設計に向け、作業を開始する。

##### 《大学院》

2015年9月「公認心理師」法が成立し、人間科学研究科臨床心理学領域としてこれへの対応を迫られていることから、大学人間科学部人間科学科

への社会人編入枠の拡充を含めて制度の補修を進める。国際協力研究科においても、入試改革を進めて募集力の向上を目指す。また、大学院を窓口とし、生涯学習センターとの連携の下に、外国人コミュニティ混成という港区（大学院所在地）の地域的特性に配慮した地域貢献策を検討し、その実現を期す。

### （中学部・高等部）

毎日の朝の礼拝や中1オリエンテーション、中2夏期学校、高一カンファレンス、高二修学旅行、高三修養会などの諸行事をとおして、学院に受け継がれてきたキリスト教教育を継続するとともに、建学の精神である「敬神奉仕」の継承を図る。

中学部では、しっかりとした基礎学力をつけながら、学びに対する積極性、探求心を養うことのできる授業形態を研究する。高等部では、質の高い授業を推進しつつ、講義型授業ばかりでなく、生徒が主体的に学ぶ探求型、発信型授業形態を積極的に取り入れていく。教科の内外を問わず、授業を見合い批判し合い高め合う教師間の連携をつくっていく。生徒による授業アンケート、保護者による授業アンケート実施に積極的に取り組み、授業の質を高める工夫を自ら率先して行える教師集団づくりをする。

英語では、国際社会で通用する英語力として自分の考えや思いを発信できるライティング、スピーキング、相手の主張を聞き取ることのできるリスニングやリーディングの力を総合的に習得できるようにする。多読プログラムを中学1年生から3年生までで実施する。

S G H（スーパーグローバルハイスクール）アソシエイト校として2年前より開始しているTEAM（ミャンマーについての学び）やTERA（哲学書を共に読むプログラム）などにより、考える力、理解し合い伝え合う力、を養う。海外校や海外団体との交流を積極的に行う。生徒会がACEF（アジアキリスト教教育基金）を通して続けているバングラデシュとの交流や、ミャンマーを題材としたS G Hプログラムでの学びをとおして、奉仕の精神を持つグローバルリーダーの育成を図る。

夏期カナダ語学研修、春期アメリカ語学研修に加え、1月から3月のカナダ、アメリカ、オーストラリアの協力校との短期留学の充実を図る。

クラブ活動必修制を維持し、心身の健全な成長を促すとともに、学校行事や野尻キャンプサイトでの夏期行事などを通じて、生徒の自主的な活動を育成する。野尻キャンプサイトでは自然環境の保全をテーマに緑化プログラムを推進する。夏の修養会では東日本大震災の被災地である福島県南相馬の保育園児を軽井沢追分寮に招き共に過ごす。

ピアノ科をはじめとする課外教室の充実にも努め、より豊かな感性を養う機会とする。

小学部、大学との連携を強め、より充実した一貫教育の中での人間教育や教科教育の構築を推し進める。

#### (小学部)

学院全体による「敬神奉仕」の精神に基づく人間形成のうち、学童期を担う小学部では、今年度は特に、一人ひとりが神から委ねられた使命のためにそれぞれいただいている「タラント」を見出し、養うことを目指す。

具体的な教育内容としては、自らのタラントを用いて主体的に学習に取り組む児童を育てるために、「小学部ならではの」ICTを活用した教育を進めていく。また同じようにタラントをいただいている友だちと学び合う中で、友だちのタラントを育てることも目指していく。

引き続き、伝統的に特色ある英語教育、国際教育のこれまで以上の充実を図る。またそれぞれのタラントが生かされる、運動会、学芸会、コンサート、夏期学校、修学旅行など年間の様々な行事をさらに充実させ、子どもたちの生き生きとした取り組みを全力で支える。

同時に昨年より開始した、未来の小学部の教育を創り上げるための長期将来計画を、協力して進めていく。

#### (東洋英和幼稚園)

「敬神奉仕」の精神を具現化するため、保育者は神から愛されていることを感謝して保育にあたり、愛をもって園児や保護者に向き合う。周囲の人々や神から愛されていることの実感を園児が持てるよう関わる。

2015年度より園児定員が30名増えたため、行事のもち方、各年齢の発達段階を踏まえた保育内容の検討を行う。

アジアキリスト教教育基金を通じたバングラデシュの子どもたちや寺子屋学校への支援をさらに深める。

講師を招いてのキリスト教保育をテーマとした園内研修を継続し、保育の質の向上に努める。

幼稚園設立100周年を記念した冊子を発行し、学院全体・各部の情報を積極的に発信し、幼稚園や学院への関心を深める。

#### (大学付属かえで幼稚園)

引き続き、地域の中の幼児教育・保育の場として、子育て支援の場として、また保育者養成に寄与するため、キリスト教に根ざした質の高い教育に努める。それと共に、学院・大学と連携し、『東洋英和のキリスト教保育』『幼子と家庭(保護者)の真の支援とは何か』を模索し続け、具体的に動いていく。守り続けるべきものと、変えていくべきものとを捉え、5年後10年後を見据えて、計画実行していく。

現代にあって、けっして多数派ではないが、あえて『幼稚園』を求めている保護者に向けて、かえで幼稚園の存在と、本園の建学の精神・特色・願いを、より広く、よりわかりやすく知らしめるため、広報に力を注ぐ。

## 2. 各部の環境整備計画

### (大学)

耐震強化のため大規模天井（5号館5201教室、礼拝堂）の補強工事を実施する。大学・大学院とも老朽化したパソコン等の入れ替えをする。また、図書館のラーニング・コモンズ化に向けた調査・検討を行う。このほか、各建物のLED化や節水コマの設置を行い、校地全体の省エネ並びに節水化を推進し、事務部門（総合企画課・キャリアセンターなど）の戦略的改装を進めていく。

### (中学部・高等部)

耐震強化のため小講堂の天井補強工事を行う。

教育環境のより一層の充実を図るため、全教員がタブレット型PCを持ち、電子黒板での授業との連動を図り、探究型発信型授業への結びつきを促進し、併せて学内会議や打ち合わせのペーパーレスによる能率化などを目指し研究を進める。教務システムをより効率的で安定性のあるものへ刷新し、学籍管理や入試データ、進路データなどの管理能率化を図る。保護者からの遅刻や欠席などの連絡にウェブ連絡も併用できるように変更する。

野尻キャンプサイトの斜面法面の改良工事と緑化を自然環境に配慮しながら進める。

### (小学部)

ICT教育の充実のために電子黒板、タブレットを導入する。またこれを機に無線LANを設置し、ICT環境を整備する。

昨年度全面リニューアルしたホームページのサイトをさらに充実させ、きめ細かい情報提供による小学部教育の外部への発信に努める。

校舎外壁の補修、塗装工事をし、美しい教育環境の提供を目指す。

### (東洋英和幼稚園)

自動火災報知機を更新し、危機管理体制を充実させる。

経年変化に伴う園舎の改修、とくに屋根と外壁の劣化補修工事を重点的に行い、小学部と共用としてきたAEDを新たに園舎内に設置し、より快適で、より安心・安全な教育環境を作る。

### (大学付属かえで幼稚園)

長期計画を考えつつも、今現在の園児と保護者及び保育者の安心・安全・健康・保育の質が守られるよう、環境の整備と設備の充実等を計る。特に、保育室内外の塗装、トイレ・洗濯場の改修、年少組保育室空調機設置等を計画している。

### 3. 管理運営計画

当学院の各部門が上記教学計画、環境整備を円滑に実施出来るよう、管理運営面で以下の課題に重点を置き取組んでいく。

- ・六本木五丁目西地区市街地再開発について、再開発準備組合等との折衝にあたる。また、対外折衝の状況に応じて、学院各部との連携のもとに必要な検討作業を推進する。
- ・教職員が一段の能力向上を図り、働き甲斐を感じる事が出来るよう、良好な執務環境の確保にあたる。また社会全般の雇用状況を踏まえつつ、給与処遇制度の改善を検討する。
- ・法令、規程に基づき適正に事務を遂行し、とくに補助金、科学研究費など公的資金を財源とする研究費について、法令等に基づき適切な管理運用を図るため、新たに設けられた監査体制を適切に運営する。
- ・取引先との既往契約を合理性・効率性の観点から見直し、大口契約を中心に競争見積り合せを実施することにより、予算の適正かつ効率的な執行を図る。
- ・安全性と収益性の両面に配慮した資産運用を行ない、当学院の将来計画を視野に入れつつ財務基盤の充実を引続き図る。
- ・当学院が保有する史料を活用した展示をさらに充実させるとともに、保存活動を推進する。日常の広報活動や東洋英和楓の会の運営を通じ、全ての学院関係者と学院との連携を引続き強化する。また、東日本大震災の被災地支援に引続き取り組む。

以 上